

探そう！ JASマーク

私たちが主に目にするJASマークには、平準化規格のJASマークで通称「一般JAS」と、生産の方法などに特色のあるJASのうち、有機の基準に適合する製品に付ける「有機JAS」、有機以外の製品に付ける「特色JAS」などがあります。



おいしさや、安全な品質を表しているんだね

平準化規格JASマーク、通称「一般JAS」

品位、成分、性能、その他の品質などがJASに適合している製品に付けられるのが、通称「一般JAS」(平準化規格のJAS)です。マークの下には検査した機関の名称が記されていて、第三者機関がしっかり審査した証拠になります。JASの中には等級のある製品もあります。その場合はJASマークに併せて等級も記されています。JASの格付が疑わしいなど、何かがあった場合には事業者を追跡できる体制が取られています。

JAS



発見！



環境に優しい作り方を表しているのね

有機JASマーク

有機JASマークは、登録認証機関から有機JASの認証を受けた事業者が、有機JASの基準に従って生産した有機農産物、有機畜産物、有機藻類とそれらを原料とした加工食品などに付けられています。事業者が有機JASの認証を受け、製品に有機JASマークを付けなければ、「有機」や「オーガニック」の表示はできません。



発見！



こだわりの作り方を表しているのよ

特色JASマーク

特色JASマークは日本の伝統的な方法で生産された製品や、付加価値のある製品などに付いています。日本を象徴する「富士山」と、日の丸を連想させる「太陽」を組み合わせたデザインには「信頼の日本品質」への思いが込められています。このマークの製品には、手延べ干しめん、りんごストレートピュアジュース、地鶏肉、熟成ハム類、熟成ソーセージ類、熟成ベーコン類、ノウフク製品、大豆ミート食品類などがあります。



発見！



測定方法にも規定があるんだ

試験方法JASマーク

食品や農林水産物に多く含まれる機能性成分などの測定方法を規格化したのが試験方法JASです。国際的な評価基準に基づいて登録を受けた試験業者が、これらの試験方法により試験を行った結果であること、つまり試験結果の信頼性を証明するための認証が、この試験方法JASマークなのです。このマークは、私たちが目にすることは少ないかもしれませんが、企業は自社の生産技術などの強みをアピールできるので、販売戦略を立てる上で重要な制度といえます。



広がるみんなのJAS

「ノウフクJAS」は、農業と福祉が連携して、障害のある人が生産工程に携わった食品や観賞用植物の農林規格です。「ベジタリアン・ヴィーガンJAS」は、宗教上の理由などで肉や魚などの動物性食品を取らず、穀物や豆類、野菜などの植物性食品を取る人が適切に商品選択ができるよう、ベジタリアンやヴィーガンに適した加工食品や、その料理を提供するレストランの基準を定めた規格です。



「ノウフクJASマーク」(左)と「ベジタリアン・ヴィーガンJASマーク」の表示例



食品売り場などでよく見かけるJASマーク。ところでJASって何だろう？ どんな役割があるんだろう？ みんなで考えてみましょう。

JASって何だ？

知っているようでよく知らない

Japanese Agricultural Standards

JAS=日本農林規格、英語の頭文字を取った通称です。

JASは、食品や農産物、木材などの品質や成分、生産方法、管理方法などについて、農林水産大臣が定めた国の基準(規格)のことです。この基準を満たし、認証を取得することでJASマークを付けることができます。JASマークは、製品が一定の品質や安全性を持っていることを示す目印なのです。

協力：一般社団法人日本農林規格協会(JAS協会) イラスト：ゆきたけし

なぜJAS制度ができたの？

JAS(日本農林規格)が最初に法律で定められたのは1950年のことです。当時、日本は戦争が終わったばかりで、ものが不足しているだけでなく、質の悪い製品もたくさん出回っていました。こうした問題を解決するため、食品や農林水産物の品質や基準を統一して、一定のレベルを確保するためのルールが必要になりました。それがJASです。

JAS制度はどんな役に立っているの？

JASの規格は94種類あります(2025年1月現在)。この規格があることで、私たち消費者は製品が一定の基準を満たしていると確認できるので、安心して自由を選ぶことができます。さらに、JASの認証を受けた会社は自分たちが作る製品の品質やこだわりをアピールできて、広く社会の信頼を得ることもつながります。

JASマークの安心の決め手とは？

JAS制度の下、国から認められた検査機関(登録認証機関)が、毎年、農場や工場を訪れて基準を満たしているかをチェックしています。この検査では、製品の作り方や品質がJASの基準に合っているかを細かく確認します。これにより私たち消費者は安心して品質の良い製品を手にとることができるのです。

JASの歴史を知ろう

JAS制度は、1950年に日本農林規格等に関する法律(JAS法として)始まりました。その後、70年に「品質表示基準」という仕組みが加わり、現在のJAS制度の基礎がつけられました。食品や農林水産物の品質や基準がしっかりと定められており、私たちも安心して利用できる仕組みになっています。

- 1950 昭和25年 JAS法制定 JAS制度を創設
- 1970 昭和45年 品質表示基準制度の導入
- 1993 平成5年 生産方法に特色のあるJASが制定できるよう改正
- 1999 平成11年 有機食品の検査認証制度を導入
- 2005 平成17年 流通方法に特色のあるJASが制定できるよう改正
- 2013 平成25年 品質表示基準制度がJAS法から食品表示法へ移管
- 2017 平成29年 JASの対象をモノの生産方法(プロセス)や取扱方法(サービスなど)、試験方法などにも拡大
- 2022 令和4年 有機JASに有機酒類を追加

※食品表示法とは、食品には具体的な表示ルールが食品表示基準で決まっています。食品の製造者、加工者、輸入者または販売者(食品関連事業者等)はこのルールを守らなければなりません。